

1 中期学校経営方針

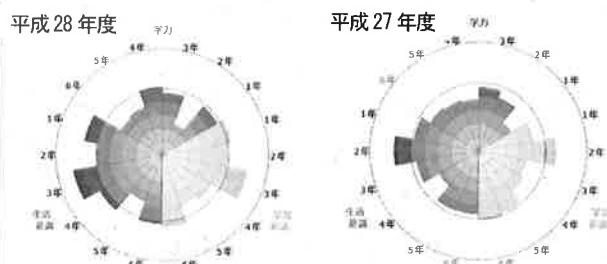
(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
育てる子ども像	
○ 自分の思いや考えを、自分の言葉で、自信をもって表現する子	○ 自分で判断し、行動する子
☆ 自分づくり教育の充実（みんなと協力する・自ら考えて行動する・自分を知る）	
☆ 読書を通し語彙を増やし、言葉の力をつけ、コミュニケーション能力を育成する。	
☆ 挨拶・返事・立腰の姿勢を柱とし、よい生活習慣を身に付ける。	
☆ 学級・学年・異学年・中学校・幼稚園・保育園・地域や人や自然とのふれ合いや栽培活動を通した、学びの場や交流の場を設定する。	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	主体的に学ぶ児童の姿の実現に向けて、一人ひとりが意欲的に取り組める授業づくりの手立てを探る。	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、校内で研修会・講演会を行う。 ・一人1回の校内授業研究を通して、主体的・対話的で深い学びの授業実践を行う。 ・授業実践につながる教材研究や児童への手立ての検討などを、学年ブロックを中心に協同して行い、皆で授業力の向上を目指す。
担当	研究推進委員会	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

学習意識は横浜市の平均とほぼ変わらない学年がほとんどであるが、生活意識と学力に関しては、市平均を下回る学年が多く見られる。

「勉強が好きか」という問いに対しては、好きと答えた児童が正答率の高い低いにかかわらず、市平均を上回り、「学校の授業は分かりやすいか」という項目にも低中学年を中心に、「分かる」と答えた児童は多かった。その一方で、「自分の考えを発表

しているか」「ノートを工夫して書いているか」という項目に関して意識が低いことから、主体的に生き生きと学習に取り組む姿の実現を目指すことが必要であると考えられる。また、学んだことを他教科や生活で活用できるよう、各教科において言語活動を充実させるとともに、読書活動を積極的に取り入れ、学習を支える言語能力が身につくようにしていく必要がある。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：読み書きはほぼ市平均と並ぶが、語彙力と、多様な読書から自分の考えを形成していくことに課題がある。
- 算数科：全体的に知識・理解の定着が低く、計算の意味を正しくとらえたり、数量関係をつかんだりすることに課題がある。
- 社会科：市の平均に近い学年もあるが、資料の読み取りや活用に課題がある。
- 理科：全体的に関係付けて考えたり規則性をとらえたりといった科学的な思考・判断の力に課題がある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成23年度から28年度過去5年間の経年変化の状況を学年ごとに見ると、どの学年も少しずつ学力面で伸びている傾向にある。学習意識を見ても、前年度と同程度か少し上昇している学年が多く、少しずつ学習に対して前向きな気持ちが伸びているのが感じられる。確かな学力をめざし、つまづきを解消するための手立てや授業づくりに焦点をあてて校内研究を進めてきたことへの手応えは感じるが、全体の学力向上に向けて、より「わかる」と実感できる授業づくりが必要であることも感じる。生活意識においては、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかった経験がある」「一生懸命取り組んでいることがある」の伸びは見られるが、家庭学習の時間は伸びが少なく、逆にテレビの視聴時間が長い傾向が明らかになった。それらの生活習慣は学力の伸びに大きくかかわっているという結果が出ており、学校と家庭とでよりよい生活習慣を身につけさせていくことが学力の向上に不可欠であるといえる。今年度も児童の実態を発信しながら、学力向上に向けて教育活動を行っていきたいと考える。